

## 食品中の放射性物質に関する コミュニケーター研修 ー オリエンテーション ー

毎日の食事。安全・安心が気になります。



## 2 食品の放射性物質に関する規制 食品と放射能 Q&A



## ハザードとは

＜ハザード(危害要因)＞(CODEXの定義)

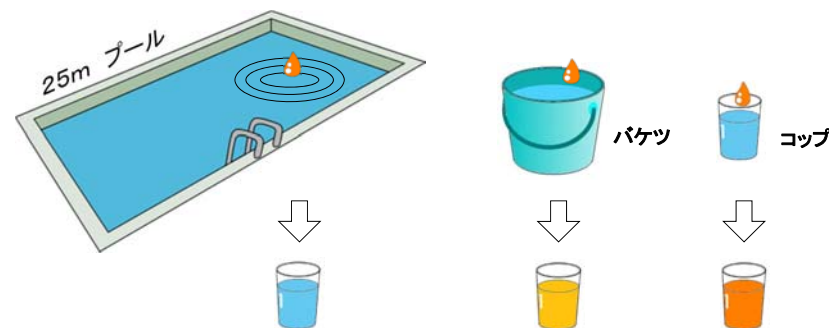
健康に悪影響を及ぼす可能性のある食品中の、生物学的、化学的または物理学的な物質または、食品の状態

Hazard - a biological, chemical or physical agent in, or condition of, food with the potential to cause an adverse health effect.



## 「量」の概念

一滴のハザードが及ぼす影響を想像してみよう。



私たちは、ハザードに量の概念を持ち込んで安全を考えている。



## 食品のリスクとは

### <リスク>

健康に悪影響を及ぼす可能性とその程度

ハザード(毒性) × 量(人体への暴露量)

食品の安全は、量の問題。

*The dose makes the poison.*



リスクが許容範囲にあるものは、安全である。



## 「食品のリスク」の特徴

- 「毒にも薬にも」 = 適量という概念
  - ・ 糖質・脂質：エネルギー源／肥満
  - ・ 塩：細胞外液の主成分／高血圧
  - ・ ビタミン：欠乏症／過剰症
  - ・ アルコール(小量では健康に良いという節もある)



- 微量の毒性物質を許容
  - ・ 高温加熱したイモ(アクリルアミド)
  - ・ コーヒー(がんの抑制作用の研究もある)
  - ・ 食品中のヒ素やカドミウム

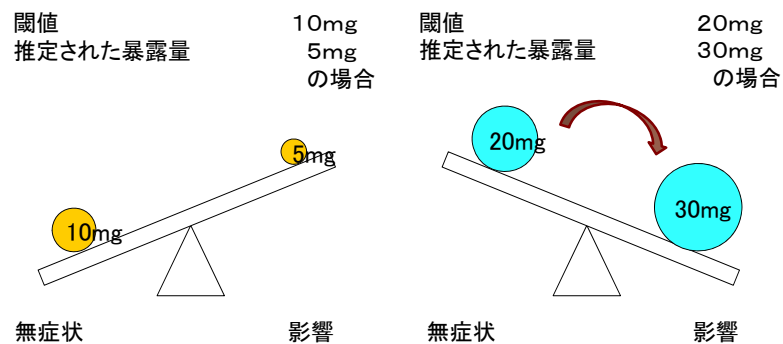


ゼロリスクはない。

リスク評価・リスク管理の考え



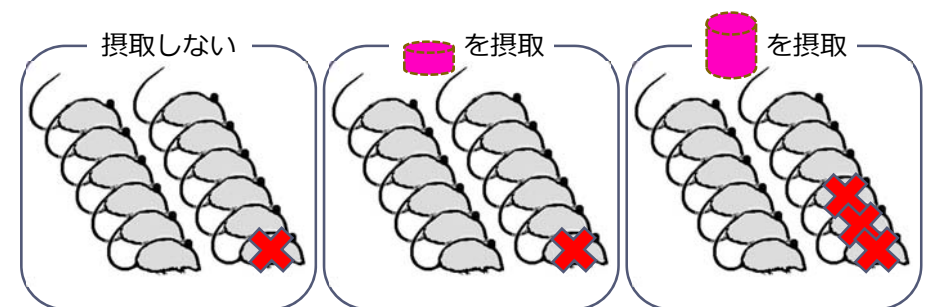
## リスク評価の考え方



健康に影響を及ぼさないとされている量を閾値と言い換えると、推定された暴露量が閾値より少ない場合は影響はなく(左)、閾値より多い場合は影響がでる可能性があります(右)。



## リスク評価の考え方(2)



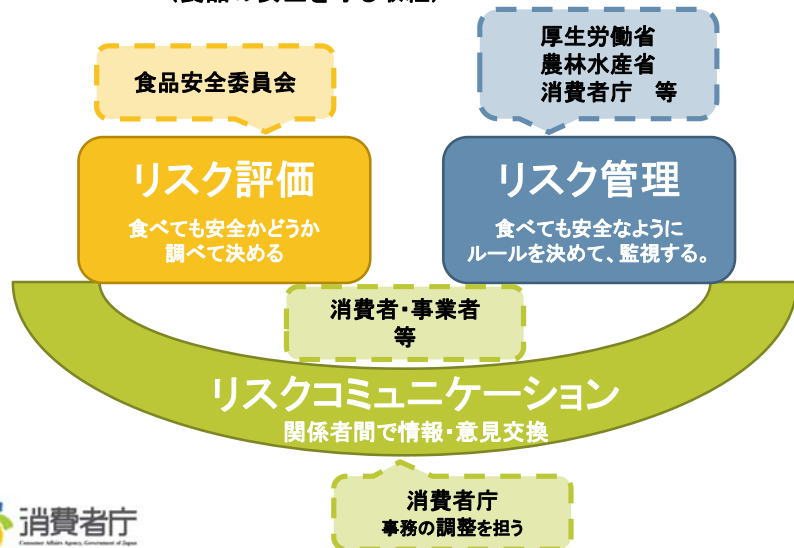
摂取しない群と を摂取した群で健康被害の程度は同じ

だが、 を摂取した群では健康被害が増加。

健康影響を評価するには、ハザードに暴露していない群と比較する必要がある。

# 食品安全行政のリスクアナリシス

(食品の安全を守る取組)



## リスクコミュニケーションの重点的展開

4府省庁(食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省、消費者庁)連携による大規模なシンポジウム形式から、福島県庁などの自治体との連携によるセミナー等、様々な形態による集会を各地で開催。

平成25年度は、地域において正確な情報提供ができる者(コミュニケーター※)の養成研修を開催。平成26年度は、養成したコミュニケーターが、地域において正確な情報提供ができるように、各種の支援を行っていくこととしている。

※消費者及び地域の方々と直接接する消費生活相談員、消費生活アドバイザー、保健士、栄養士、保育士、学校給食関係者、その他食品中の放射性物質に関する知見の普及に意欲を持つ方々。

説明会開催数	23年度	24年度	25年度	26年度 ※10月末現在	合計
リスクコミュニケーション(回)	45	175	99	34	353
コミュニケーターに関する研修(回)	—	—	66	3	69
コミュニケーター養成人数(人)	—	—	約3,400	—	—



## 皆さんにお願いしたいこと (消費者庁が考える情報発信)

### コミュニケーターの活動(情報発信)とは？

- ①ミニ集会開催(DVD上映会)
- ②リーフレットの配布
- ③日常の相談対応 など



説明会等に出かけられない人でも地域にコミュニケーターがいれば、正確な情報を知ることができる。



## 皆さんにお願いしたいこと (消費者庁が考える情報発信)

### コミュニケーターとは？

